

みずしるべ

編集・発行
 国土交通省中部地方整備局
 新丸山ダム工事事務所
 〒505-0301 岐阜県加茂郡八百津町八百津3351
 TEL0574-43-2780 FAX0574-43-3921
 ホームページアドレス <http://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/>
 メールアドレス shinmaru@cbr.mlit.go.jp
 平成27年3月30日発行



新丸山ダム付替国道418号 恵那市区間に着手

平成27年3月7日(土)、岐阜県恵那市飯地町の飯地コミュニティセンターにおいて、新丸山ダム工事事務所、岐阜県恵那土木事務所の共催による「付替国道418号飯地地区中心杭打ち式」を、国会議員、関係自治体首長、県議会議員、市議会議員、地元関係者等、約70名の参加で執り行いました。

式典では、八鍬局長より「日頃の国土交通行政への支援・協力と地元関係者の尽力に感謝、新丸山ダムの早期事業完成に努力する、引き続きの支援をお願いしたい」との式辞がありました。

また、参列の3名の国会議員より祝辞をいただき、古屋議員からは「ダム事業としてはこれからが正念場、予算の確保に努めていく」と、新丸山ダム事業の早期完成にエールを送られました。

可知恵那市長は、今日に至るまでの地元の思いと、付替国道418号の早期完成を望む地域の声を述べられ、同道路への期待の大きさをうかがわせました。

式典を終えた後、地元の出席者より「良かった。今後に期待だ」、杭打ちに参加した児童達からは「飯地町の将来にとって本当に大事な道だと分かった。大人になって車の運転が楽しみ」等の声が寄せられており、改めて当事業への期待が大きいことを知る機会となりました。



古屋圭司 衆議院議員



渡辺猛之 参議院議員



柘植芳文 参議院議員



可知義明 恵那市長



八鍬隆 中部地方整備局長



柘植渥美 飯地町新丸山ダム建設対策協議会長



三輪孝司 新丸山ダム工事事務所長



今井久朗 恵那土木事務所長

付替国道418号飯地地区中心杭打ち式
 式次第
 1. 開会
 2. 祝辞
 3. 中心杭打ち
 4. 閉会
 5. 挨拶
 6. 挨拶
 7. 挨拶
 8. 挨拶
 9. 挨拶
 10. 挨拶
 11. 挨拶
 12. 挨拶
 13. 挨拶
 14. 挨拶
 15. 挨拶
 16. 挨拶
 17. 挨拶
 18. 挨拶
 19. 挨拶
 20. 挨拶
 21. 挨拶
 22. 挨拶
 23. 挨拶
 24. 挨拶
 25. 挨拶
 26. 挨拶
 27. 挨拶
 28. 挨拶
 29. 挨拶
 30. 挨拶
 31. 挨拶
 32. 挨拶
 33. 挨拶
 34. 挨拶
 35. 挨拶
 36. 挨拶
 37. 挨拶
 38. 挨拶
 39. 挨拶
 40. 挨拶
 41. 挨拶
 42. 挨拶
 43. 挨拶
 44. 挨拶
 45. 挨拶
 46. 挨拶
 47. 挨拶
 48. 挨拶
 49. 挨拶
 50. 挨拶
 51. 挨拶
 52. 挨拶
 53. 挨拶
 54. 挨拶
 55. 挨拶
 56. 挨拶
 57. 挨拶
 58. 挨拶
 59. 挨拶
 60. 挨拶
 61. 挨拶
 62. 挨拶
 63. 挨拶
 64. 挨拶
 65. 挨拶
 66. 挨拶
 67. 挨拶
 68. 挨拶
 69. 挨拶
 70. 挨拶

新丸山ダム付替国道418号事業概要

丸山ダム貯水池の右岸沿いを通る国道418号は、新丸山ダム建設事業に伴い水没する道路です。当事業では、その補償工事として、八百津町八百津から恵那市飯地町までの約12.7kmを整備することになっていますが、そのうち同町潮南までの延長約9.2kmは整備が終わり、平成22年3月から一般供用されています。

今年度より、八百津町潮南から恵那市飯地町に向けて、延長約3.5km、総幅員7.5m、2車線で対面通行が可能となる安全で快適な道路を、国と岐阜県の費用負担で、引き続き当事務所が整備を進めています。

現在、恵那市飯地地区においては、実施設計を終えた段階であり、今後は工事着手に向け、用地取得を目指すこととなります。

付替国道418号



式典終了後の地域文化に関するお話会

式典終了後、「地域文化に関するお話」と題して、飯地五毛座（ごもうざ）歌舞伎保存会の山口氏によるお話会が行われました。東濃地方に広く伝わる地歌舞伎の飯地町での歴史から地域風習、狩猟の昔話など、歌舞伎のセリフや笑いをまじえてお話され、会場は大きな拍手や歓声に包まれました。

また、飯地町まちづくり委員会の皆さんによる郷土料理（手作り朴葉餅とスルメの麴漬け）も振る舞われ、なごやかなひとときを過ごしました。

飯地五毛座歌舞伎保存会と飯地町のますますの発展を願っております。



第19回新丸山ダム環境調査検討委員会を開催



3月3日（火）、第19回新丸山ダム環境調査検討委員会を岐阜市のじゅうろくプラザで開催しました。

この委員会は、新丸山ダム建設事業における自然環境への影響軽減を図ることを目的として平成5年から開催しているもので、委員は動植物などの幅広い専門家からなり、ダム建設事業への指導や助言を頂いています。

新丸山ダム環境調査検討委員会

委員名簿

（五十音順、敬称略）

氏名	専門分野	役職名
大塚 之稔	鳥類	日本野鳥の会岐阜 代表
小笠原 昭夫	鳥類	名古屋学芸大学短期大学部 非常勤講師
梶浦 敬一	哺乳類・両生類・爬虫類	ぎふ哺乳動物研究会
駒田 格知	魚類	名古屋女子大学 特任教授
西條 好迪	植物	自然学総合研究所 所長
野崎 悠子	環境デザイン	YU PLOT 造形研究室 主宰 （愛知県立芸術大学 名誉教授）
野平 照雄	昆虫類	自然学総合研究所 理事
松尾 直規	水質	中部大学工学部 教授

平成27年3月3日現在



今回の委員会では、約20年にわたり委員会で検討して頂きました新丸山ダムの環境保全策についてをとりまとめた「新丸山ダム建設事業における環境保全への取り組み（概要版）」の内容を確認して頂きました。

同概要版は、一部修正を加えた内容で3月末に新丸山ダム工事事務所HPで公表し、一般向けに要約した小冊子「次代へ伝えるダムとの共生」も同時に公表します。

また、平成26年度の環境モニタリング調査の結果、「現在のところ猛禽類の繁殖活動に工事の影響はない」ことを確認して頂きました。

今後の委員会はダム工事の主要な区切り毎に開催するとともに、委員会開催年以外には各委員個別に毎年のモニタリング調査の報告をすることとなりました。